

教科名	公民	科目名	倫理
学年	第2学年	単位数	2単位
使用教科書	数研出版 『倫理』		
副教材	第一学習社 『テオーリア 最新倫理資料集』 数研出版 『倫理 演習ノート』		

## 1 学習目標

人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、青年期における自己形成と人間としての在り方生き方について理解と思索を深めさせるとともに、人格の形成に努める実践的意欲を高め、他者と共に生きる主体としての自己の確立を促し、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

## 2 指導の重点

- ①生徒が直面する生き方の課題を学習の中心とし、その課題を先哲の考え方を手がかりにして学ばせる。  
②学習内容を生徒が単に知識として学ぶのではなく、自己の課題として受け止める学習となるようにする。

## 3 学習計画

学期	単元名	学習活動（授業内容）
1学期	第1編 現代に生きる自己の課題 第1章 人間とは何か 第2章 青年期の課題と自己形成 第2編 人間としての自覚と生き方 第1章 人生における哲学 第2章 人生における宗教 第3章 人生の知恵 第4章 人生における芸術	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青年期の意義 ・自己の理解に向けて</li> <li>・豊かな自己実現のために ・神話から哲学へ</li> <li>・自然哲学の誕生とソフィスト</li> <li>・ソクラテス ・プラトン ・アリストテレス</li> <li>・ヘレニズムの思想</li> <li>・キリスト教 ・イスラーム ・仏教</li> <li>・孔子と儒家 ・儒教 ・道家</li> </ul>
2学期	第3編 現代社会と倫理 第1章 現代の倫理的課題 第2章 現代に生きる人間の倫理 第4編 国際社会に生きる日本人の自覚 第1章 日本の風土と外来思想の受容 第2章 現代の日本と日本人としての自覚	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間の尊厳 ・自然や科学技術と人間とのかかわり</li> <li>・民主社会における人間のあり方</li> <li>・自己実現と幸福 ・個人と社会とのかかわり</li> <li>・現代における理性の問題</li> <li>・日本の風土と伝統 ・仏教の伝来と隆盛</li> <li>・儒教の日本化 ・日本文化と国学</li> <li>・近世庶民の思想 ・西洋近代思想の受容</li> </ul>
3学期	第5編 現代の諸課題と倫理 第1章 生命と倫理 第2章 環境と倫理 第3章 現代の家族とその課題 第4章 地域社会の変容と共生 第5章 情報社会とその課題 第6章 グローバル化の時代と倫理 第7章 人類の福祉と国際平和	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生命をめぐる倫理的課題</li> <li>・自然環境とどう付き合うか</li> <li>・家族をめぐる問題</li> <li>・地域社会とどうかかわるか</li> <li>・情報社会をめぐる倫理的課題</li> <li>・文化・宗教とグローバル化</li> <li>・平和の実現には何が必要か</li> </ul>

## 4. 課題・提出物等

適宜、レポート・小テスト・その他の課題などを課す

## 5. 評価規準と評価方法

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
青年期における自己形成について関心を高め、人格の形成と自己の確立に努める実践的意欲を持ち、諸課題を探究する態度を身につける。	自己の確立について課題を見だし、人間の存在や価値などについて考察し探究するとともに、主体的かつ公正に判断して適切に表現している。	諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、これらを他者と共に生きる主体としての自己の確立に資するように活用している。	青年期における自己形成や人間としての在り方・生き方などに関わる基本的な事項を、自己確立の課題とつなげて理解し、身につけている。
以上の観点をつまえて、「授業中の学習への取り組み」、「課題・レポートの内容や提出状況」、「小テストや定期考査」などから、総合的に評価する。			